

Shu Ogawara selection of 1940's : The flower and a crow



花と鳥 1940年

小川原脩セレクション 花と鳥—1940's

2019.4.20 Sat—7.7 Sun

小川原脩記念美術館 第2展示室

開館時間／9:00～17:00 (入館は16:30まで) 休館日／毎週火曜日、5月8日 (4月30日は開館)

観覧料／一般500 (400) 円、高校生300 (200) 円、小中学生100 (50) 円 () 内は10人以上の団体料金

後援／北海道新聞社倶知安支局

小川原脩記念美術館

〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1 (0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>

1940年代—昭和15年から25年という時代

小川原脩は1935年に東京美術学校(現・東京藝術大学)卒業した後も東京に留まり、アカデミックな美術への疑問と苦悩の中、シュルレアリスム(超現実主義)絵画の旗手・福沢一郎と出会います。前衛的な絵画に取り組む画家たちとの交流を経て「エコール・ド・東京」などへの参加、そして「美術文化協会」の結成に加わります。

一方、戦時体制が強まり自由な創作活動は制限され、多くの作家が戦争協力を求められる時代でもありました。小川原もまた従軍画家として戦地に赴き、戦争画を制作します。しかし1945年、終戦直前の8月初旬に郷里・倶知安へと疎開し、それ以降は東京の画壇から離れ独自の道を模索していきました。

本格的にシュルレアリスム芸術運動に身を投じた1940年代初頭から、戦争へと傾斜する時代を背景とした創作の変容が現れる激動の時期をクローズアップします。



早春 1941年



婦人像 1942年



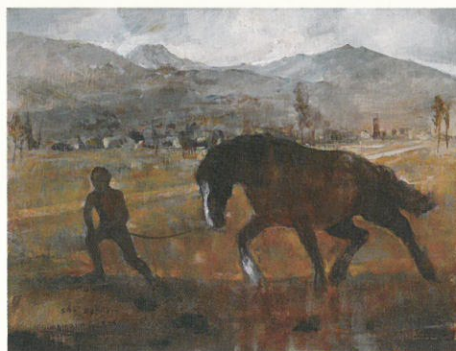
農民達 1942年



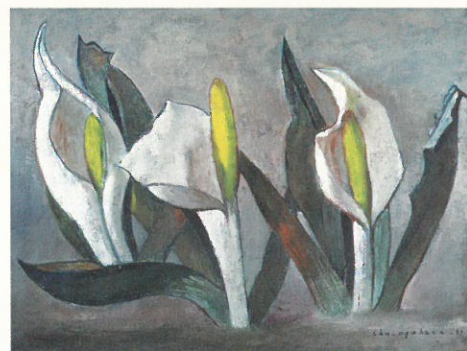
北海道移民史(士族移民時代) 1943年



鴉習作 1944年



晩秋 1945年



みずばせお 1951年



小川原脩

1911-2002

北海道・倶知安町生まれ。東京美術学校(現・東京藝術大学)西洋画科卒業。

美術学校在学中に「納屋」(1933年)が帝展に入選。卒業後、福沢一郎らと出会い「エコール・ド・東京」「創紀美術協会」「美術文化協会」などの結成に参加。シュルレアリスム(超現実主義)絵画への道を歩んだが、軍の規制が厳しくなり断念。その後、軍の命令により戦争記録画を制作する。

戦後は郷里・倶知安に戻り、岩船修三、木田金次郎らと「全道美術協会(全道展)」の創立に参加。1958年、野本醇、因藤壽、穂井田日出麿らと「麓彩会」を創立。1975年、北海道文化賞受賞。1994年、北海道開発功労賞受賞。この年、小川原脩画集(共同文化社)を出版する。

倶知安町に定住してから60数年もの間、新たな造形の可能性を求め続けた。70歳を目前にして訪れた中国、チベット、インドでの体験を契機として創作の新境地を拓いている。

◎同時開催.....

小川原脩展『私の中の原風景』

4月20日(土)～8月4日(日)



小川原脩記念美術館

Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1 (0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>